

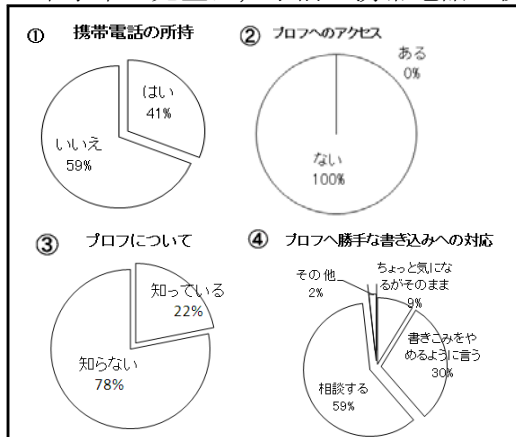
第6学年 情報モラル学習指導案

指導者 ○○ ○○

1. 単元名「目的を考えて情報を発信しよう」（総合的な学習の時間）

2. 指導観

- 本学年の児童は、事前の携帯電話の使用に関する実態調査(平成21年7月実施 60名)では、自



分の携帯電話を持っている児童は全体の41%に上る。これは、市内3小学校第6学年児童の平均所持率約30%より高く(同年同月調査 226名)、およそ4人に1人が携帯電話を持っている状況である(左円グラフ①)。また、携帯電話から容易に情報発信ができ、近年、出会い系サイトとして犯罪の温床とも言われている「プロフ」と呼ばれるサイトについては、全員が「アクセスしたことはない」と回答している(左円グラフ①- (1))。しかしプロフのサイトについては、携帯電話の所持の有無に関わらず、22%の児童が「知っている」と回答し(左円グラフ②)、児童の間にプロフの存在が広がりつつあると考えられる。プロフへの他人による勝手な書き込みがあった場合については、「書き込みをやめるように言う」が30%、「相談する」が59%と、ほとんどの児童が不適切な情報の発信から自分を守りたいという意識を持っている。しかし、約10%弱の児童が「ちょっと気になるがそのままにする」と回答しており、情報の取り扱いについて慎重さが欠け、情報発信にかかわるモラルが身に付いているとは言えない状況である。

したがって、この時期に情報発信についての正しい知識や望ましい表し方を身に付ける学習を行うことは、情報モラルを育てていく上で重要であり、かつ必要不可欠であると考えます。

- 本単元は、情報モラル指導カリキュラムにそって設定した情報モラル学習単元である。ここでは、第5学年での電子掲示板の利用における心構えやマナーについての学習を踏まえ、インターネット上に情報は、不特定多数の人が閲覧することの認識をもつとともに、自分の発信する情報に責任をもつことの重要性を理解できるようにすること、また、ホームページ等でインターネット上へ情報を発信する場合は、その情報の表し方に気を付けることができるようすることを主なねらいとしている。

また、インターネットの匿名性について、その長所や短所を自分なりに比較することを通して、インターネット上への情報発信に関する見方や考え方を養うことも重要なねらいである。

これらのことは、児童自らが日頃から情報モラルを身に付け、望ましい態度で情報社会を生きていくことにつながっていくものであり大変意義深いと考える。

- 本単元の指導にあたっては、国語科の学習で身に付けた力をもとに、イントラネットを活用した情報発信の体験活動の場を仕組んだり、討論形式による話し合い活動を取り入れたりしながら、情報モラル指導カリキュラムで設定した育成のねらいを達成できるようにしたい。

そのために、まず、国語科の学習において、目的を明確にして自分の思ったことや考えたことを伝えたことを振り返る。そして、自分の思ったことや考えたことを広く伝える方法としてインターネットを活用することに目を向けさせ、その際には、情報モラルを身に付ける必要があることを意識させる。

次に、パソコンルームのイントラネット上で「疑似プロフ」を立ち上げ、そこに自己紹介(プ

プロフィール) を載せるという体験活動の場を設定する。そこでは、身近な人を対象にする場合と不特定多数の人を対象にする場合について、その内容や表現の違いを比較し、自分から情報を発信す際はその表現に気を付けることやインターネットへの情報発信の責任の重要性について理解させていく。

さらに、プロフの疑似体験とつなげて、インターネットの匿名性の是非を討論させ、匿名であることの長所や短所について考えさせることで、望ましい情報発信のための見方や考え方を自分なりに広げたり深めたりすることができるようにするとともに、情報社会をよりよく生きていこうとする意欲を高めていきたい。

3. 単元の目標

- ・ インターネット上の情報は不特定多数の人が閲覧することの認識をもつとともに、自分の発信する情報に責任をもつことの重要性が分かる。(正しい知識)
- ・ ブログやプロフ、ホームページ、チャット等で自分から情報を発信する場合は、その情報の表し方に気を付けることができる。(表し方)
- ・ インターネットの匿名性について、その長所や短所を考えることができる。(見方・考え方)

4. 単元の計画 (全 4 時間)

配時	主 な 学 習 活 動 と 内 容	評 価 規 準	教科等
1	<p>○国語単元「ともに考えるために伝えよう」の学習で学んだことを振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 目的を明確にして自分の思ったことや考えたことを伝えたことについて <p>○自分の思ったことや考えたことを伝える手段としてインターネットがあることについて話し合い、情報モラルの必要性について確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ホームページの他に「プロフ」や「ブログ」と呼ばれる情報発信の手段があることについて ・ それぞれにまつわる社会的な事件が起きていることについて <p>情報の収集や発信における意図的に行われる不適切な行動や情報社会がかかえる問題点等について問題意識をもたせる過程</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報発信の手段には、様々なものがあることが分かる。 ・ インターネット上への情報を発信に関して起こっている諸問題に関心をもち、自分たちの問題としてとらえている。 	総合的な学習の時間
2	<p>○共同学習支援ソフトを活用し、プロフの疑似体験をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 書き込みの方法と約束について。 ・ 対象別による書き込み(グループ別) ・ 体験活動によって分かったことについて <p>求められる情報モラルの妥当性や必要性を納得し、それを自分自身の問題としてとらえるさせる過程</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目的をもち、内容や表現をじ自分なりに気を付けながら自己紹介(プロフィール)を作成している。 ・ インターネット上の情報は不特定多数の人が閲覧することの認識をもっている。 	
1	<p>○プロフの疑似体験をもとに、インターネットの匿名性の是非を討論する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ネット上の書き込みが匿名で行われていることの長所や 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分なりの根拠をもって、インターネットの匿名性の是非 について考えを 	

	<p>短所について</p> <p>獲得した情報モラルを日常生活で発揮していこうとする意欲とその具体的な見通しをもたせる過程</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学んだことの生活の中における生かし方について 	<p>述べている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・匿名の長所や短所を比較し、インターネットへの情報発信に関する自分なりの見方や考え方を広げたり深めたりしている。 	
--	---	--	--

5. 本時の目標

- インターネット上の情報は不特定多数の人が閲覧することの認識をもつとともに、自分の発信する情報に責任をもつことの重要性が分かる。(2/4, 3/4)
- ブログやプロフ、ホームページ、チャット等で自分から情報を発信する場合は、その情報の表し方に気を付けることができる。(2/4, 3/4)
- インターネットの匿名性に関する討論を通して、その長所や短所を自分なりに考えることができる。(4/4)

6. 本時指導の考え方

本時指導にあたっては、イントラネット上に設定した疑似プロフに自分の自己紹介(プロフィール)を書き込む体験活動とインターネットの匿名性に関する討論を通して、自分から情報を発信する場合は、その情報の表し方に気を付けることやインターネット上の情報は不特定多数の人が閲覧することの認識をもち、自分の発信する情報に責任をもつことの重要性を理解させていきたい。また、匿名による情報発信の長所や短所についての自分なりの考えをもち、情報発信への見方・考え方を広げたり深めたりできるようにしていきたい

そのために、まず、共同学習支援ソフトを活用し、パソコンルーム内に疑似プロフを立ち上げる。その際、あらかじめ作成しておいたプロフィールの例を提示し、児童に疑似プロフのイメージをもたせる。共同学習支援ソフトの使用方法については、できるだけ理解しやすいように、教師用パソコンの画面を見童用パソコンのモニターに転送し、ログインから文字入力、自己紹介のアップロードまで、手順を一つ一つ確認しながら説明していく。

次に、身近な人への発信とインターネット上への発信の2つの場合での疑似プロフを活用した情報発信の体験を行っていく。パソコン台数の関係でグループに分かれ交代でプロフィールを書き込んでいくが、文字入力には個人差があるので、活動の時間には十分配慮するとともに、ソフトの操作については適宜支援を行う。

そして、それぞれの場合による書き込みの内容や表現の違いについて話し合う。その話し合いをもとに、自分から情報を発信する場合は、その情報の表し方に気を付けること、また、インターネット上の情報は不特定多数の人が閲覧することの認識をもち、自分の発信する情報に責任をもつことが大切であることをまとめていく。

その後、疑似プロフの体験活動をもとに、インターネットへの情報発信が匿名で行われることに関する討論の場を設定し、その長所や短所について話し合うことで、情報発信に対する見方・考え方を自分なりに広げたり深めたりできるようにする。

最後に、学んだことをどのように生活に生かしていくかを交流し、獲得した情報モラルを日常生活で発揮していこうとする意欲とその具体的な見通しをもたせていきたい。

7. 準備

教師：学習プリント(2~4/4)、ノートPC(4/4)

児童：これまでの学習プリント(2~4/4)、筆記用具(2~4/4)

8. 学習の展開(2/4)

学 習 活 動 と 内 容	指導上の留意点(・)や主な支援(○)評価(※)
<p>1. 前時学習をふり返り、本時のめあてをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">めあて</p> <p>プロフの体験をして、情報を発信する時の心がまえについて考えよう。</p> </div> <p>2. 「疑似プロフ」の使い方を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ログインの方法について ・文章入力について ・登録と表示について <p>3. 身近な人を対象にした自己紹介を作成し、投稿する。</p> <p>4. 感想を出し合う。</p> <p>5. 次時学習への見通しをもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・プロフを体験をもとに情報発信の心構えをみんなで考えていくことを確認する。 ・共同学習支援ソフトの使い方については、教師画面を児童側に送信し、操作を交えて説明する。実際のプロフは投稿の段階で ・自分のことを知っている身近な人にもっと自分を知ってもらうことを目的にした情報発信であることを知らせる。 ○コンピュータは2人1組で使用しているので、2つのグループに分けて、書き込ませるようにする。(グループについては予め分けておく。) ・文字入力に時間がかかる子もいるので、活動時間は十分配慮する。 ※疑似プロフの使い方を知り、目的をもって内容や表現を気を付けながら自己紹介(プロフィール)を作成している。(観察) ・友達の自己紹介を閲覧させ、興味がある内容があった場合は、質問や感想などを書き込むことができることを知らせる。 ○感想は自由に出させるが、「おもしろかった」「楽しかった」等に終始せず、教師から問い直すなど具体的に発表させるようにする。また、内容や表現を閲覧しながら、適切な情報発信について確認していく。 ・次時は情報発信の目的をかえて、体験をしていくことを知らせる。

(3/4)

学 習 活 動 と 内 容	指導上の留意点(・)や主な支援(○)評価(※)
<p>5. インターネット上の不特定多数の人を対象にした自己紹介を作成し、投稿する。</p> <p>6. 2つの体験を比較しながら、感想を出し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・この時間はできるだけ多く見知らぬ人に自分のことを知ってもらうという目的であることを知らせる。 ※自分から情報を発信する場合は、その表し方に気を付けている。(観察、ノート分析) ・前時に行った身近な人を対象にした場合と

7. 体験を通して分かったことをまとめる。

・インターネット上の情報は不特定多数の人が
見ることをいつも考えておくことが大切



- ・自分から情報を発信する時の表現には十分気を付けること。
- ・自分が発信する情報には、自分なりに責任をもつこと。

8. 本時学習を振り返り、自己評価をする。

どう違うのかを交えて感想を発表させる。
本時でその内容や表現を変えた場合は、その理由も挙げさせていく。出てきた理由については、板書して整理し、まとめにつなげていけるようにする。

- ・児童個々に体験で気付いたこと分かったことを挙げさせ、それをもとに、プロフへの情報発信についての心構えをまとめていく。
- ※インターネット上に情報を発信する場合は不特定多数の人が閲覧することを認識しておく必要性を理解している。

(発言チェック、ノート分析)

- ・まとめについては、プロフだけではなく、その他の方法による情報発信の場合も同じことが言えることを補足する。
- 自己評価は記述と項目選択の2つをさせる。記述については単なる学習の感想に終わらないように、情報モラルの獲得の視点で書くことを指導する。

(4 / 4)

学 習 活 動 と 内 容	指導上の留意点(・)や主な支援(○)評価(※)
<p>1. 前時学習を振り返り、本時のめあてをつかむ。</p> <p style="text-align: center;">めあて</p> <p style="text-align: center;">インターネットの使い方について、自分の考えを広げよう。</p> <p>2. インターネットの匿名性について討論する (討論の進め方①～④)</p> <p>①議題に対し、根拠を明確にして賛否を示す。</p> <p>②討論する。(一斉と少人数)</p> <p>③自分の考えを再考し、交流する。</p> <p>④最終意思を表示し、討論を終了する。</p> <p>3. 討論を通して学んだことをまとめるとともに、これからの自分の望ましい情報発信に対する見通しをもつ。</p>	<p>・匿名で自己紹介の投稿したことをふまえ、インターネットの匿名性について討論していくことを確かめる。</p> <p>・自分が「どこのだれか」ということを明かさないことを「匿名」と呼ぶことを教える。</p> <p>※前時学習とつなげて討論の目的を理解できている。(観察、ノート分析)</p> <p>○根拠が書けない児童については、個別に既習事項やこれまでの知識や経験を振り返るように助言し記述を支援する。</p> <p>※根拠を明確にして自分の考えをもっている。(発言チェック、ノート分析)</p> <p>・児童の発言内容に具体性に欠ける部分がある場合は、教師側から補足の質問等を行い、内容をより分かりやすくしていく。</p> <p>・日常生活における情報モラルの実践に向け今後のインターネットとのかかわり方について自分なりの見通しをもたせるようにす</p>

4. 本時学習を振り返り，自己評価をする。

る。情報通信機器にあまり接していない児童の意見をできるだけ多く出させたい。

※討論を通じてインターネットに対する自分の見方・考え方を広げたり深めたりできている。（発言チェック，ノート分析）

※インターネット上への望ましい情報発信についての見通しを自分なりにもっている。

（発言チェック，ノート分析）

○自己評価は項目選択と記述の2つをさせる。項目選択は，振り返りの視点が明確になるように形式を工夫し簡潔にできるようにする。記述については単なる学習の感想に終わらないように，自分の見方・考え方の広がりや深まりの視点で書くことを指導する。

【4 / 4 で提示する討論の議題】

下は，インターネットを使って，情報をやりとりをすることについての会話の一部です。

A君 「インターネットで，見知らぬ誰かと情報をやりとりする時，お互いに『どこのだれか』が分からないのは，都合がいいことが多いと思う。だって……。」

B君 「ぼくは君の考えとはちがって，お互いに『どこのだれか』が分からないのは，よくないことが多いと思うよ。だって……。」

さて，あなたは，どちらの意見に賛成(または考えが近い)ですか？